

地域防災減災センター2019年度 災害対応特別事業
令和元年 台風19号被害及び災害復興支援に対する調査・研究活動プロジェクト
成果報告書

〔1〕報告者情報			
フリガナ	ヤマモトエイジ	所属部局 職 名	人文学部 教授
研究者氏名 (代表者)	山本 英二		
研究プロジェクト名	台風19号に伴う被災文化財のレスキューと保全活動		

〔2〕研究概要・成果
<p>《研究概要》</p> <p>本研究は、2019年10月に発生した台風19号、いわゆる令和元年東日本台風で被災した文化財レスキュー活動をおこなうことにある。研究概要は、以下の4つの活動からなる。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 水災資料の冷凍保存処置 ② 被災資料の保全作業 ③ 保全資料の整理作業 ④ 研究活動の成果公表 <p>《研究成果》</p> <p>まず①水災資料の冷凍保存処置である。千曲川水害によって被災した文化財は、長野市内の寺院や地域公民館、個人宅に保管されていた仏像や掛軸、経典、古文書類である。水に浸かった古文書類は、カビの発生と固着を防ぐために冷凍保存処置を施す必要がある。そこで研究費で冷凍ストッカーを購入し、主な作業場所である長野市立博物館に設置した。そして水害によって被災した資料を格納することができた。冷凍保存した古文書は、順次解凍しながら、保全作業へと進めることができた。</p> <p>次に②被災資料の保全作業である。水損した経典や古文書、掛軸については、水抜き作業と防かびなどの保存処置が必要となる。そこで研究費を利用して、保全作業に必要なサージカルマスク・吸水ペーパー・ゴム手袋・消毒用エタノールIPを購入した。作業としては、被災した古文書については、吸水ペーパーを利用して余分な水分を吸着・除去し、同時にエタノールIPによって殺菌したのち、乾燥させていく。この保全作業では、サージカルマスクとゴム手袋を着用しておこなうことが必須である。この作業を繰り返しながら、保全作業を推進することができた。</p> <p>さらに①②の作業を経て、保全を完了した資料については、③保全資料の整理作業を進めた。人文学部の協力を得て、信州大学人文学部内に古文書・保全物資の保存・保管スペースを確保することができた。また保全作業の終了した一部の古文書については、個別に調書を作成し、タイトル・史料内容・作成年代・作成⇒受取・形態・数量などのデータを作成することができた。今回の作業では、新たに江戸南町奉行所文書約146点を発見することができた。</p> <p>そして④研究活動の成果公表として、旅費を利用して2020年2月8～9日にかけて、神戸市東灘区御影公会堂において開催された第6回「全国史料ネット研究交流集会」に参加・交流し、台風19号への対応に関する報告を原田和彦（研究分担者・長野市立博物館）がおこない、活動状況についての成果の一部を公表することができた。また研究代表者の山本は『長野市立博物館紀要』第19号pp.19-21（2020年）に活動の成果として「東日本台風災害と信州資料ネット」を公表することができた。</p>

台風19号に伴う被災文化財のレスキューと保全活動

研究代表者：信州大学人文学部・教授・山本英二

- ①水災資料の冷凍保存処置⇒冷凍ストッカーへの収納
- ②被災資料の保全作業⇒エタノール消毒
- ③保全資料の整理作業⇒聖教・古文書目録編成
- ④研究活動の成果公表⇒第6回史料ネット全国研究集会参加

